

平成 2 3 年度実施 協働事業 中間報告

行政提案型協働事業

事業名	パートナー	担当部署
ひらつか花アグリ 花のある景観づくり事業	明日の金田を創る会	経済部農水産課
地場産の花を理解する 農業理解促進事業「花育」	花育ボランティア花伝道師	経済部農水産課
こころと命のサポート事業 「自殺対策啓発事業」	浜岳中学校区子ども読書活動 推進協議会	市民部くらし安全課
男女共同参画推進紙芝居実演 及び啓発事業	平塚てづくり紙芝居の会	市民部 人権・男女共同参画課

市民提案型協働事業

事業名	パートナー	担当部署
市民活動団体間の連携強化と 活動拠点の機能強化	ひらつか市民活動連絡協議会	市民部協働推進課
協働事業の情報発信	ひらつか自治体財政研究会	市民部協働推進課
小学生向け財政パンフレット作成	ひらつか自治体財政研究会	企画部財政課、 学校教育部指導室
「地域猫」への取り組み	平塚のら猫を減らす会	環境部環境政策課
里地里山保全活動による地域環境再生 と共生社会の確立	土屋里地里山再生グループ	環境部環境政策課
一般家庭での生ごみ処理推進事業	ごみを活かす会	環境部資源循環課
地域防災活動者研修の実施と 防災ニュースの発行	ひらつか防災まちづくりの会	防災危機管理部 防災危機管理課

平成 2 3 年 1 1 月
平 塚 市

平成23年度 協働事業 中間ヒアリング調書

平成23年 10月 31日

事業名	花のある景観づくり事業	行政提案型協働事業 市民提案型協働事業
	団体名：明日の金田を創る会	担当課：農水産課
事業を実施して良かった点・成果	会の活動を広報ひらつかや景観パネル展等を通して広く知ってもらうことができ、活動に共感した人に励ましの言葉を頂いたり、活動に賛同した人が会員になるなど、会員が事業を通してやりがいを感じていること。	地域住民で会を構成していることから、迅速性があり、植木職人や農家、花に詳しい者など、専門性を持ったメンバーもあり、事業を円滑に推進できる点。
事業実施した上で気づいた課題	花のある景観づくり事業を実施して3年目となり、行政提案型事業の最終年度でもあるので、次年度の具体的な事業展開等について、会の中で話し合う必要があった。	花のある景観づくり事業を実施して、3年目となり、行政提案型事業の最終年度でもあるので、次年度以降の具体的な事業展開等について、明日の金田を創る会と話し合う必要があった。
課題への改善・解決策の協議内容	市民提案型協働事業として、平成24年度の事業提案をし、採択されたので、今後は、来年度の事業化に向け、詳細なスケジュールや事業内容等について、話し合いを重ねる。	市民提案型協働事業として、明日の金田を創る会から、平成24年度の事業提案があり、採択されたので、今後は、詳細なスケジュールや事業内容等について、話し合いを重ねる。
今年度、事業終了後の方向性	今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他()	今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他()
下欄 次年度以降の展開(事業をどのように活かしていくか等)をご記入ください。	『みんなですすめる花いっぱい街づくり』事業を提案し、採択されたので、平成24年度は、『みんなですすめる花いっぱい街づくり』事業を市民提案型事業として実施する。 詳細なスケジュールや事業内容等については、今後、農水産課と話し合いを重ねて決定する。	明日の金田を創る会から『みんなですすめる花いっぱい街づくり』事業の提案があり、採択されたので、平成24年度は、明日の金田を創る会と市民提案型協働事業を実施する。 詳細なスケジュールや事業内容等については、今後、話し合いを重ねて決定する。
意見交換の内容・その他気付いた点(双方合同で記入)	(上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど) 特になし	

現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成23年度 協働事業 中間ヒアリング調書

23年10月31日

事業名	地元産の花を理解する農業理解促進事業「花育」	行政提案型協働事業 市民提案型協働事業
-----	------------------------	------------------------

	団体名：花育ボランティア「花伝道師」	担当課：農水産課
事業を実施して良かった点・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地元産の花のPRが出来た ・子供たちが花に触れることで感受性を育てることが出来た。特にシードの物語を通して命の大切さを学んでもらえた ・参加者は生産者と直接話をする事でプロからのアドバイスが聞けた 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元産の花をPRする機会が増え、たくさんの市民の方に宣伝することができた。 ・特に、小さい子ども向けの花育はとても評判が良く、継続的に実施してほしいとの声をたくさんいただいた。
事業実施した上で気づいた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が少なかった。広報、タウン誌の掲載やチラシを市内各所に置いて周知を図ったが難しかった ・生産者との調整が難しかった。花の咲く時期が違うのでイベントの実施日程が限られた ・生産者との交流が少なかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント実施する際、参加者を集めるのに苦労した。チラシ配布やメディアに投げかけるなど工夫はしたが、いまひとつの成果であった。 ・花に興味の薄い年代に対して惹きつけることが難しかった。 ・生産者との交流が少ない。
課題への改善・解決策の協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年課との共同で実施することで参加人数を確保、増員した ・花カフェと花ツアーを同日開催することで参加者を確保 ・生産者のイベントに積極的に参加して協力をした 	<ul style="list-style-type: none"> ・他のイベントや団体と共同でイベントを実施することで参加者を募ることができた。 ・日程調整が難しい中、生産者を講師に迎え、トレーニングを行い交流ができた。
今年度、事業終了後の方向性	<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他（ ）</p>	<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他（ ）</p>
下欄 次年度以降の展開 (事業をどのように活かしていくか等) をご記入ください。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園、幼稚園等の活動を中心に行っていく、依頼があれば生産者のイベントのお手伝いや緑化まつりへの参加をしていく。また、実績の出来た公民館等での花育を積極的進めていきたい 	<p>上述のように、保育園・幼稚園等の花育活動について評判が良く、年々花育を希望する園が増えている。生産者団体からも花育の中心となる対象は子どもが望ましいということからも、保育園・幼稚園等の花育活動を中心に行い、市や生産者などのイベントについては予算・人員などを検討して参加を決定したい。</p>
意見交換の内容・その他気付いた点 (双方合同で記入)	<p>(上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年からの課題について少しずつ解決・解消に向かっている一方で、生産者との交流やイベントの参加者確保などが課題としてあげられる。 ・来年度から協働事業の枠組みからは外れるが、花育ボランティア・生産者・市が引き続き共同で花育活動を実施していく。その為には今の時期からどうしていくかを検討していく必要がある。 	

現段階で可能な項目のみ記入してください。

23年度 協働事業 中間ヒアリング調書

平成23年10月28日

事業名	こころと命のサポート事業	行政提案型協働事業 市民提案型協働事業
	団体名：浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会	担当課：くらし安全課
事業を実施して良かった点・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校や地域へ理解が広がり、よい環境づくりができています。 ・市のHP掲載や「広報ひらつか」など中学校区外への広報ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日ごろから学校とのつながりが密接な団体との協働で実施することで、小中学校からの理解・協力が得やすくなった。 ・今年度、中学生による啓発ポスター作成や街頭キャンペーン参加など、新たな取り組みへと広がった。
事業実施した上で気づいた課題	特になし。大変よく連携ができています。	特になし
課題への改善・解決策の協議内容	特になし。	特になし
今年度、事業終了後の方向性	<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他（提案型ではなく、双方で実施）</p>	<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他（提案型ではなく、双方で実施）</p>
下欄 次年度以降の展開 (事業をどのように活かしていくか等) をご記入ください。	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の中で取組を広げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存事業の中で取り組みを広げていく。
意見交換の内容・その他気付いた点 (双方合同で記入)	<p>(上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど) 当初、団体の中には、団体の活動がどうして自殺予防になるのか、ということについて疑問視する声もあったが、協働事業の取り組みを通じて理解が深まり、現在では双方の気持ちは一致したところで実施している。 (子どものころから「命の尊さを学ぶ」ということが大事であり、またそのことを通じて、他者や自分を大切に思う気持ちが育まれ、長い目で見て自殺予防につながる。)</p>	

現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成23年度 協働事業 中間ヒアリング調書

平成23年10月21日

事業名	男女共同参画推進紙芝居実演及び普及啓発事業		行政提案型協働事業 市民提案型協働事業
	団体名：平塚てづくり紙芝居の会	担当課：人権・男女共同参画課	
事業を実施して良かった点・成果	<p>自分たちの製作した紙芝居をもう一度振り返り、脚本、絵などについて良かった点や修正すべき点を洗い出すことで、今後の紙芝居製作に活かすことができた。</p> <p>また、講義をするために、紙芝居に関する講習を受けるなど、勉強するきっかけとなった。</p>	<p>子どもたちと日常的に接している保育士に対し、効果的な上演の仕方に関する講義を通じて、男女共同参画に関する考え方や子どもへの意識啓発の大切さを伝える機会を設けることができた。</p>	
事業実施した上で気づいた課題	<p>制限時間内にポイントを押さえて講義することが難しく、伝えたいことの7割しか話すことができなかった。</p> <p>アンケートの中で、ストーリーが今の時代に合っていないのではという御意見があった。</p>	<p>時間の都合上、講義形式の事業になり、受講者の意見や質問を聞く時間をあまりとることができなかった。</p>	
課題への改善・解決策の協議内容	<p>今の子どもたちのニーズに合った男女共同参画を知った上で、啓発をしていく。</p>	<p>事業後に受講者にアンケートをすることで、意見を把握し、次の事業の際に活かしていく。</p>	
<p>今年度、事業終了後の方向性</p> <p>下欄 次年度以降の展開（事業をどのように活かしていくか等）をご記入ください。</p>	<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他（ ）</p>	<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他（ ）</p>	<p>協働事業としては、今年度で終了するが、今後も保育園や幼稚園等で上演希望があれば、ボランティアとして上演する。</p> <p>上演だけでなく、紙芝居の製作についても希望があれば、同様に対応する。</p>
意見交換の内容・その他気付いた点（双方合同で記入）	<p>（上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど）</p> <p>紙芝居は信頼関係のある者が実演することで、より一層伝えたい内容が子どもたちに伝わるため、講義を受けた保育士に実際に実演してもらえよう呼びかけていきたい。また、今年度で協働事業は終了するが、来年度も保育園や幼稚園等で上演希望があれば、ボランティアとして上演していただき、今後も子どもたちに啓発していきたい。</p>		

現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成23年度 協働事業 中間ヒアリング調書

平成23年10月31日

事業名	市民活動団体間の連携強化と活動拠点の機能強化		行政提案型協働事業 市民提案型協働事業
	団体名：ひらつか市民活動連絡協議会	担当課：協働推進課	
事業を実施して良かった点・成果	活動センタースタッフと一緒に会議し、一緒に運営することで、考えを共有できた。また、市民活動団体、自治会にアンケートをとることで連携に対する考えを収集でき、方向性の検討に役立った。	提案団体の中間支援のノウハウを活かし、今までになかった、市民活動団体間がテーマ別に連携し、継続して協議・実践していく場が形成され始めているなど、市民活動団体の支援・活性化・意見集約の一助となっている。	
事業実施した上で気づいた課題	分野別部会でも、環境部会など得意分野や専門が多様でまとめるテーマが特化しにくい。小さな事例を積み上げていくことが成功への道と考えられるので、出来ることから少しずつを合言葉に対応していくことが大切である。	分野別部会の取組みテーマが過大だと団体の負担増などにより実施困難となってしまうので、現実的な範囲の設定が必要。今回の協働の目的確認や課題等の情報共有をしながら事業を進めたい。 また、団体間の合意形成ができていないと、双方の協議のときに、多大な時間が割かれてしまう。	
課題への改善・解決策の協議内容	2月の段階で、24年度の事業展開が見えるように活動計画書を作成していく。	連絡協議会のメンバー、それぞれの部会のファシリテーター、市担当者、センタースタッフなどで進捗状況や課題等の確認、情報共有を随時行い、進めていく。	
今年度、事業終了後の方向性 下欄 次年度以降の展開 (事業をどのように活かしていくか等) をご記入ください。	今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他()	今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他()	
	23年度に作成する各活動テーマの活動計画書が実現可能なものであるかしっかり検証することが24年度成功するかに関わってくるので、検証をきちんとしたい。	23年度に団体間の連携による分野別部会で作成する、各テーマの活動案の実現に向け、24年度も協働事業として継続して実施する。さらに、活動拠点の機能強化として、団体の中間支援のノウハウを活かし、コーディネーター機能(相談機能)利用者団体交流会、協働の研修会、協働事業への相談・アドバイスなどを協働運営で展開していく。	
意見交換の内容・その他気付いた点 (双方合同で記入)	(上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど) ・団体間の連携を目的とした分野別部会では、無理のない実現可能なテーマに絞り、具体的な活動をできるところから進めていく。 ・「環境ファンクラブ」や「まちづくりユニット平塚」など既に連携が進んでいる組織と連携・協力を得て、協働事業に活かしていきたい。 ・平成23年度に行った事業の内容や成果を活かし、平成24年度の協働事業へつなげていく。		

現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成 23 年度 協働事業 中間ヒアリング調書

23年10月31日

事業名	協働事業の情報発信		行政提案型協働事業 市民提案型協働事業
	団体名：ひらつか自治体財政研究会		担当課：協働推進課
事業を実施して良かった点・成果	<ul style="list-style-type: none"> 協働情報誌1号準備中 11月発行予定。取材で団体や行政職員と面談すると、協働事業を市民に知ってもらうため、広報の大事さを訴えられ情報誌の大切さを知った。 協働相談会で団体の取組みを相談。団体の協働に対する理解が十分でないと思われる例もあり、協働の基本的な取組みを知ってもらい、来年度への提案に向けて相談を続ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の協働事業などの相談会を開催したことで、団体へのより細かいフォローができるようになった。行政だけでアドバイスするよりも、市民活動団体サイドに立ったアドバイスの方が、相談団体も受け入れやすく、今後に活かしやすい。 	
事業実施した上で気づいた課題	<ul style="list-style-type: none"> 協働事業を市民に知ってもらうため、何をどのように表現するか、キーワードを探すのが難しい。 団体と行政の思いを合わせるための対話が必要だが、難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業に携わる団体のメンバーが少なく、そのメンバーへの負担が気になり。 団体、行政の両方で、事業に対する共通認識をより深めるとが重要。 	
課題への改善・解決策の協議内容	<ul style="list-style-type: none"> 取材など、団体や行政からの、情報収集が難しい、情報提供の仕組みが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 人員や合意形成のあり方等、団体内の事業推進体制を再確認する必要がある。 協働事業に対して共通の認識を持つため、団体内や団体と行政の間でも連携を密にとり、情報の共有や課題解決を図っていく。 	
今年度、事業終了後の方向性 下欄 次年度以降の展開 (事業をどのように活かしていくか等)をご記入ください。	<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他(来年度からひらつか市民活動連絡協議会の協働事業として実施)</p> <p>情報誌の作成や相談会などに、市民活動団体との連携が必要だが、連絡協議会の活動でも同様なことが実施されており、財政研が単独で活動するより、連絡協議会の中で取組がより便利・効率的に実施できる。</p>		<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他(来年度からひらつか市民活動連絡協議会の協働事業として実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 24年度は、連絡協議会との協働事業に含めて、協働の研修会への協力、協働事業への相談・アドバイスとして実施する。 実施中の事業についてはセンターだよりなどで紹介していく。
意見交換の内容・その他気付いた点 (双方合同で記入)	(上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど)		

現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成 2 3 年度 協働事業 中間ヒアリング調書

平成 2 3 年 1 0 月 3 1 日

事業名	小学生向け財政パンフレットの作成	行政提案型協働事業 市民提案型協働事業
	団体名：ひらつか自治体財政研究会	担当課：財政課・指導室
事業を実施して良かった点・成果	まちづくり・財政への関心を持ってもらえるよう、基本的な財政を表現したパンフレットを作成し、授業に提供できた。	市民の方と協働で取り組むことにより、市民の方の考えや目線がよくわかった。今後の情報発信に役立てたいと思う。
事業実施した上で気づいた課題	財政をどのように表現するか検討に時間がかかるなど、スケジュール的に厳しい中での提案でしたので、学校側との調整が十分ではなかった。	学校の授業で活用していただくことを前提とするならば、作成者側が一方向的にパンフレットを作成するのではなく、作成以前に学校側が必要とする情報が何なのかを把握しておく必要があったように思う。
課題への改善・解決策の協議内容	授業で使用した経験を、先生からのアンケートなどを分析し、成果を次年度へ反映させたい。	2 3 年度の成果物を基に学校側へアンケートを実施し、必要とする情報等の洗い出しを行ったうえで、次年度以降に反映していく。
今年度、事業終了後の方向性	今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他（ ）	今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他（ ）
下欄 次年度以降の展開 （事業をどのように活かしていくか等） をご記入ください。	授業で使用した経験を、先生からのアンケートなどを分析し、成果を次年度へ反映させたい。	2 3 年度の成果物を基に学校側へアンケートを実施し、必要とする情報等の洗い出しを行ったうえで、次年度以降に反映していく。
意見交換の内容・その他気付いた点 （双方合同で記入）	（上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど） 今年度の成果や今後の方向性については、アンケートの結果等により、再度、意見交換をすることとした。	

現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成23年度 協働事業 中間ヒアリング調書

23年10月27日

事業名	「地域猫」への取り組み	行政提案型協働事業 市民提案型協働事業
-----	-------------	------------------------

	団体名：平塚のら猫を減らす会	担当課：環境政策課
事業を実施して良かった点・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・行政との協働事業で地域猫の会員の取り組み意欲が高まった。 ・行政との協働で地域住民への信頼度が高まり周知がやりやすくなった。 ・地域猫を協働することで他市からの問い合わせ等もあり広報効果がある。 ・まちづくりの視点から、のら猫が地域の合意を得る「地域猫」の目標になることでコミュニティとしての効果が期待できる。 ・「地域猫」へ具体的に取り組む地域が出来たことは今後の進め方への指針になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの地域・住民と話し合う機会が増え、野良猫問題の現状を知ることができた。 ・長年、野良猫問題に関わり、多くの野良猫の不妊・去勢手術をしてきた団体のノウハウを活用することができた。行政でできること、団体にしかできないことを相互で補うことができた。 ・大島地区においては、野良猫問題に積極的に関わってくれたおかげで、神社周辺での問題はほぼ解消された。 ・野良猫問題に関心を持ってくれる人が少しずつではあるが増加している。
事業実施した上で気づいた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・猫の扱いは手馴れているが、好きと嫌い、無関心の人々の合意を得る事の困難さが様々な問題提起となってきた。 ・地域の困りごとを進んで取り上げる住民意識が薄く問題を話し合う環境が整っていない地域もある。 ・「地域猫」をアピールする会のメンバーの力量不足を感じた。 ・地域への広報不足からくる地域のリーダー（会長等）の認識不足を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心な自治会もあるが、一方で自治会長に対して地域猫活動の説明をしたものの、その後まったく音沙汰がない地域があるなど、野良猫問題のとらえ方が地域によって千差万別である。 ・市民提案型協働事業全体にも言えることだが、協働事業自体や地域猫活動についての周知が不徹底である。そのため、地域の人に理解してもらうのに時間がかかる場合が見受けられる。
課題への改善・解決策の協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーを増員し数人グループが問題地域で「地域猫」のジャケットを着用し行動した結果を自治会等に広報して行くことで地域に問題提起をする。 ・会員のレベルアップを図る、学習会。地域の行動から学び啓発力を高める。 ・必要に応じウンチパトロールを実施。猫のフンと周辺の美化清掃で猫被害の軽減を図り地域に合意を得る活動。 ・協働推進課の「協働情報紙ひらつか」地域猫広報紙活用（センター祭活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報媒体やホームページ等でさらなる普及啓発活動をしていく。 ・課内のイベント等で地域猫活動のPRを図る。 ・平塚市自治会連絡協議会（平自連）を活用するなどして、地域の人たちに対して地域猫活動の紹介や普及を図っていく。
今年度、事業終了後の方向性	今後も双方で実施	今後も双方で実施
下欄	団体が単独で実施	団体が単独で実施
次年度以降の展開	行政が単独で実施	行政が単独で実施
	事業は今年度で終了	事業は今年度で終了
	その他（ ）	その他（ ）

<p>(事業をどのように活かしていくか等)をご記入ください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域猫活動はのら猫をゼロにするのではなく、のら猫被害から起きる人のトラブルゼロを目指すと共に動物愛護法の観点から、人との共生を図っていく。 ・地域猫を進める事で、住民同士のコミュニティの活性化を図り絆が深まることで「まちづくり」への貢献を目指す。 ・東日本大震災で尊い人命が失われたが、家族として生きてきた動物たちの悲惨な姿が報道された。数年前、市内の高浜高校・大原高校で、のら猫から「命の尊さ」を説いてきたがこの事業を通してさらに子供たちに「命」を伝えていく。 ・のら猫問題は1年や2年など短い期間で解決できない、長い視点での取り組みが不可欠なため、今後も行政と連携を取りながら事業を進めていくことを求めて行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野良猫によるフン害や野良猫への無秩序なエサやりによる住民同士のトラブルの件数は、ほぼ横ばいである。 ・地域猫活動により、不妊・去勢手術をより徹底し、補助金制度と並行して事業を進めていき、トラブルを減少させていく。 ・野良猫問題が生じたときに現場に行くという対応を市がするようになってまだ日が浅く、市民団体のノウハウを活用すればとても効率的である。今後も団体と協力して事業を進めていきたいと考えている。 ・野良猫のトラブルの解決については、不妊去勢手術の実施、野良猫の寿命、地域の理解等を考慮すると、年単位という長いスパンが必要である。今後も市民団体と連携を取りながら取り組む必要があると考える。
<p>意見交換の内容・その他気付いた点(双方合同で記入)</p>	<p>(上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初想定した以上に、自治会単位で取り組んでいくことが難しいと感じている。原因として、自治会長の積極性や地域性の違いがあること、地域によっては問題が生じているところが自治会内のほんの一部で、自治会全体で取り上げるほどではないという認識をされてしまうことである。 ・広報やホームページでの啓発・周知活動も大切であるが、市と団体が協力して、一つでも多く現場に行き、市と団体と地域の3者のつながりを深めていくかが重要であると考えている。 ・捨てられた猫はその生息場所で繁殖し被害も集中するので、広い自治会単位の地域では問題を共有できず被害のない所との温度差が考えられる。 ・たかがのら猫であるが、好きと嫌いと無関心の人が、地域の困りごとを自分の利害中心で考え、問題を共有して地域が協力する姿勢が薄い、災害時など力を合わせなければ困る時はどうするのかのら猫に問われているような気がする。 	

現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成23年度 協働事業 中間ヒアリング調書

23年 10月 31日

事業名	里地里山の保全活動による地域環境再生と共生社会の確立(グランドワークの推進)	行政提案型協働事業 市民提案型協働事業
	団体名：土屋里地里山再生グループ	担当課：環境政策課
事業を実施して良かった点・成果	里山への進入路が確保され、里地里山での通年整備活動が行いやすくなった。また、駐車場及びトイレの設置を行ったことで、イベント等の開催や作業の効率がアップした。	駐車場や仮設トイレ等の整備を行うことで、観察会等のソフト事業を行いやすくなり、市民が里山に触れ合える場が提供された。
事業実施した上で気づいた課題	里山への進入路について、当初は砂利道にする予定であったが、県から砂利敷きは里山の保全・再生とは認められないとの連絡を受けた。(県条例) 湧水のコントロールについて、現在仮設パイプを随所に設置してコントロールを試みているが、下流部分についてはより太い仮設パイプを設置したい。	駐車場について、県条例に基づく協定を地権者と結び、県に対して補助金の申請を行ったが、県の現地視察において、「砂利を敷くことは里山の保全・再生として認められないため、今回のように駐車場として砂利が敷かれた状態では補助金の交付はできない」との連絡を受けた。そのため、その後に協働事業として予定されていた進入路部分への砂利敷きについても、県から里山の保全・再生と認められず、団体の今後の活動に支障が出る可能性があるため、団体と整備内容について検討を行った。
課題への改善・解決策の協議内容	里山への進入路については、県とも相談し、当初予定していた砂利道を木道に変更した。 湧水のコントロールについては、今後関係各課と協議する。	里山への進入路については、砂利道を木道に変更して整備を行うこととした。
今年度、事業終了後の方向性 下欄 次年度以降の展開(事業をどのように活かしていくか等)をご記入ください。	今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他() ブルーベリーの植栽等を実施することにより、各種事業の場とするとともに、市民の憩いの場とする。(平成24年協働事業提案済み)	今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他() 同左
意見交換の内容・その他気付いた点(双方合同で記入)	(上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど) 今後も地域の特産品をつくるなど、団体が補助金に頼らず、独立するための自主財源の確保を目指していきたい。	

現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成 23 年度 協働事業 中間ヒアリング調書

平成 23 年 10 月 13 日

事業名	一般家庭での生ごみ処理推進事業		行政提案型協働事業 市民提案型協働事業
	団体名：	担当課：資源循環課	
事業を実施して良かった点・成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市民の中にこの問題に関心を持つ人たちがいることを確認できた 2. 協働事業とすることで事業をより広く展開することができた 3. 既に自家処理していた人に自信を与えたとともに、生ごみ処理相談員をやってみようという人が現れた 4. 講座の内容は高く評価された 	生ごみを自家処理することに関心のある受講生が熱心に講師の発言や実演に注視しており、質疑応答も活発にされていた。また、受講生間での情報交換等もあり、生ごみの有効活用の輪が広がる兆しが見られた。	
事業実施した上で気づいた課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談員養成の前提として多数の実施者がいることが必要であることが分かった 2. 相談員だからといって、すべての方法を修得している必要はなく得意技が一つあればいい 3. 土日祝日開催希望者が少なくない 	本年度は生ごみ処理相談員を養成するための講座であったが、受講した多くの市民は、自らが実践している生ごみの処理技術を向上させることに関心があるようだった。	
課題への改善・解決策の協議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心のある方法だけを受講できるようにする 2. 土日祝日にも開催する 3. 登録ステッカーを「生ごみ処理相談員」と「生ごみ処理実施家庭」の二種類とする 4. イベントで発掘した実施者も登録可とする 	生ごみの自家処理人口を増やすことを目的に市民ニーズに合致した講座の方法、内容、開催場所にすることが求められる。そのため、次年度の事業提案書を作成する折には、改善点として反映させる。	
今年度、事業終了後の方向性	<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他 ()</p>	<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他 ()</p>	
下欄 次年度以降の展開 (事業をどのように活かしていくか等) をご記入ください。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 23 年受講者による地域での出前講座の実施 2. 受講者を増やすために、広報、宣伝、啓発を強化する 3. 実技講習を出来るだけ現地開催とする 4. 平成 23 年度の経験をふまえ、テキストの改訂版を発刊する 	<p>生ごみ減量化・活用の視点から、生ごみを自家処理する人口を増やしていくため、講座の充実を行うほか、HP 等により PR を行う。</p> <p>市民の要望にこたえて生ごみ処理相談員を紹介する、市と団体等によるネットワークを構築する。</p>	
意見交換の内容・その他気付いた点 (双方合同で記入)	(上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど)		

現段階で可能な項目のみ記入してください。

平成23年度 協働事業 中間ヒアリング調書

23年10月31日

事業名	防災活動者研修及び防災ニュースの発行	行政提案型協働事業 市民提案型協働事業
-----	--------------------	------------------------

	団体名：ひらつか防災まちづくりの会	担当課：防災危機管理課
事業を実施して良かった点・成果	<p>地域防災活動者育成研修（初級編） 1回4回を会担当で実施したが大学講師講義だけでなく被災経験語り部や東北被災地への消防支援活動など多彩な講和があり研修参加者に災害イメージと減災への関心持っていただけたと思う。防災WSは各班に分かれお互いの地域の課題を話し合うきっかけにもなった。 地域防災活動者研修における震度調査アンケートの実施。東日本大震災における市内での実際的な揺れ状況をアンケートで調査し、結果を平塚市と地域に還元する。</p>	<p>地域防災活動者育成研修（初級編） 講師を招いて専門家の知見による地域性のある講話があり、参加者の防災への関心が深まった。 200人規模の研修であるが、団体側スタッフが多くのことから、ワークショップ（クロスロード）では、グループに分かれた、きめ細かい運営ができた。</p>
事業実施した上で気づいた課題	<p>東日本大震災発生により、協議の機会を持つことが困難になった。 A、地域防災活動者育成研修初級第四回で資料作成等が研修直前となった。 B、防災ニュース発行 ニュース内容の絞り込みが遅れ、協議の機会が持てなかった。 震度調査アンケート 協働事業提案の際に予定していなかった震度調査アンケートを提案し実施したが、担当課から契約に沿った事業執行を求められた。</p>	<p>団体の意思決定が、団体担当者に任せられている面があり、協議中にしばしば団体内部の意見の食い違いが見られ、協議が進まないことがあるので、改善が必要。 年間予定表は、組まれていたが、実際には協議日程が十分組めず、予定どおり進まなかった。また、行政からの要望が団体全員に十分伝えられなかった。 防災ニュースに関しては、本来の目的である自主防災組織役員の手助けとなる有用な情報を掲載するに及んでおらず、市側が求める精度を満たしていない。 年2回発行だが、未だ発行に至っていない。</p>
課題への改善・解決策の協議内容	<p>A、資料の役割分担を再度確認し、締切日を共有する。 B、防災ニュース 10月末に行政・団体の担当間で意見交換をする。 震度調査アンケート アンケートの目的価値と方法について協議を行った結果、行政の協力を得て実施することとなった。</p>	<p>下半期は、月1回のペースで行事が開催されるため、事前の打ち合わせについては、計画的に行い、連絡を密にする。</p>
今年度、事業終了後の方向性	<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他（ ）</p>	<p>今後も双方で実施 団体が単独で実施 行政が単独で実施 事業は今年度で終了 その他（ ）</p>
下欄 次年度以降の展開（事業をどのように活かしていくか等）をご記入ください。	<p>24年度も市民提案型協働事業としてほぼ同内容（防災懇談会を付加）で申請、採択を受けている。 今年度の課題を教訓とし、より意義ある地域防災活動者育成研修や、防災ニュース発行に努力したい。 新たに加えた防災懇談会を地域の方々に情報交換の場とすると共に、団体には地域情報を得る機会としたい。</p>	<p>24年度も市民提案型協働事業として実施。 以後については、事業運営のノウハウについては団体側が十分に持ち合わせており、協働事業の枠にとられない事業展開が可能なことから、別々に事業を実施していく。</p>
意見交換の内容・その他気付いた点（双方合同で記入）	<p>（上記、各項目で相違点があった場合に話し合った内容や、お互いに意見交換したことなど） 効率的な協議についてしっかり行っていくことは、市、団体側とも同意した。 残っている事業の、地域防災活動者育成研修（中級編）、防災ニュースについては、今回初めての事業であるため、連絡を密にしていく。</p>	

現段階で可能な項目のみ記入してください。